

林田特殊鋼材株式会社

突出した鋼材加工技術で
高付加価値品を提供

期 納
相 相
企 画
自 力
信 有
コ ス
ト 談
相 談
オン
リー
ワン
技術
量 産
対 応



さまざまな独自技術を持つ工場

業務内容
固有の加工技術を持つ
特殊鋼商社

特殊鋼の専門商社である林田特殊鋼材。ベアリング用鋼材の取扱量では関西トップクラスを誇っている。在庫の豊富さもさることながら、取引先の求めるものを求める形にし、短納期・低コストで提供している点が大きな特長だ。

同社は、他社にはない高度な鋼材加工技術をいくつも持っている。大量の製品をできるだけ早くという取引先ニーズに応えるため、設備や工程に工夫を重ね、ここできできない加工を実現している。

強み
徹底した手法改善で
低コストと迅速化を実現

例えば、従来は総型成形パイプを使用していたベアリング用鋼材の加工を、市販チップによって行うことで、納期の迅速化とコストダウンを成し得ている。「総型成形パイプは製作に1か月半もかかるため、リードタイムが非常に長くなってしまいます。でも、市販チップを使って総型成形パイプと同じような加工ができる技術を確認することで、安価でスピーディーなものがくりを可能にしました」と林田社長。

また、NC旋盤のチャック爪を改善することにより、2工程必要だった



3次元測定機社内へ装備

加工を、わずか1工程で行える独自技術も開発している。これによって、生産性が向上する他、寸法検査の手間も少なくできる。

独自技術
鋼材と樹脂の
複合材切断も可能

鋼材と特殊樹脂パイプを組み合わせた複合丸材の切断も、同社だけが行える独自加工だ。本来、やわらかい素材と硬い素材を同時に切るのは至難の業だが、刃物に工夫を凝らすことでそれを実現。月間3〜5万個を量産できる体制を整えている。

加えて、特殊樹脂パイプを高速大量切断する専用機も開発。その他、調質後に高周波焼入れされた長尺材料から個取り切断する技術等、他ではやらないような加工プロセスの改善によって、単に鋼材を卸すだけでなく、取引先にメリットをもたらす提案を可能にしている。

今後の展望
人を育て、さらに高い
付加価値を生み出したい

どうすればリードタイムとコストを下げるができるか。それに挑戦し続けてきたことが、独自の加工技術による高付加価値品に結びついてきた。

今後、取引先の要望に応えられる材料選定、コスト管理、加工体制を強化すると共に、燃料電池等の新エネルギー用の部材や部品も手掛けたと話す。「海外ではつくれない高品質なものを追求したい。人材育成に力を入れながら、さらに営業提案力を高めていきます」。

COMPANY PROFILE

林田特殊鋼材株式会社

大阪23

ISO 9001



戦前に創業していた鋼事業を、戦後まもなく再開。昭和35年には1次問屋として取引を開始しました。その後、昭和59年に切断工場を建設。加工もできる商社として、自社工場と協力工場を駆使してお客様の要望に応じてきました。当社は「人」を大切に企業。社員の知恵を活かした改善や技術開発で、さらに飛躍していきたいと考えています。

高い付加価値を持った材料は、円高であっても売れます。

代表取締役社長 林田 彰司さん



■主な事業内容

特殊鋼材、超硬合金、普通鋼材の加工・販売等

■主な取引先（納入先）

ベアリングメーカー、工作機械メーカー、産業機械メーカー、部品メーカー等

住所／〒546-0001
大阪市東住吉区今林
4-12-14
TEL／06-6792-5454
FAX／06-6792-5422
創業／昭和15年1月
設立／昭和28年1月
資本金／3,375万円
従業員／55名

<http://www.hssk.co.jp>